北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要『生涯学習研究と実践』創刊号　平成13年３月
Bulletin of the Continuing Education Research Institute, Hokkaido Asai Gakuen University Vol. 1　March, 2001

# Mt. Bullerスキー場(Australia)の現状とわが国におけるスキー環境の課題

## Present Situation of the Mt. Buller Ski Resort in Australia

竹　田　唯　史
Tadashi　TAKEDA

## Ⅰ　は　じ　め　に

筆者は2000年８月２日～11日まで、オーストラリアのMt.Bullerスキー場においてスキー場の環境、スキー学校のシステム、スキー指導方法の調査を行った*ので、その概要を報告し、わが国におけるそれらと比較することによって、わが国における生涯学習スポーツについての課題を提言する。

調査方法は、筆者自身の調査および、スキー学校の校長であるBernd Greberやその他のスキーインストラクターによる聞き取り調査によって行われた。

## Ⅱ　スキー場概要

Mt.Bullerスキー場は、1924年に開発されて以来、リフト・Tバーを合わせて25機、ゲレンデ数約60コースとオーストラリアでも大規模なスキー場である（写真１）。人工降雪機が完璧に整備され、スノーメイキングは昼間でも行われ、雪の少さを補っている。ナイタースキーはオーストラリアでは、ここだけであり、毎週水・土曜日の２回、19時～21時まで行われている。スキーシーズンは平均的には７月の初旬から９月下旬の３ヶ月（良い時で、６月中旬より10月中旬まで）と比較的短い。大都市メルボルンから約250km、車で約３～４時間と離れた場所に位置するにも関わらず、日帰り客も多い。自分で運転するか、もしくはバスツアーが企画されている。また、３～７日程度宿泊していく滞在型の人達も多い。スキーに熱心な人や自分の別荘などがある人は、毎週末金から翌週の日曜日まで滞在したり、１シーズン滞在する人もいる。

ビレッジ(村)はおよそ３km×1.5km四方の中に位置し（写真２）、総計約200戸の宿泊施設、レストラン、個人宅などがある。ビレッジ内は24時間、一回１ドルのタクシーが循環している。スキー場のリフト代は一日券が大人50Aドル（オーストラリアドル、1Aドル＝約70円）、子供27Aドル、午後券が大人40Aドル、子供19Aドルである。リフト営業は８：30～17：00までである。日本人のお客さんは５年ほど前より徐々に増えてきている。日本からのお客さんは団体

*　本研究は平成12年度北海道浅井学園大学特別研究費の助成に基づき行われた。

**写真１　Mt.Bullerスキー場**

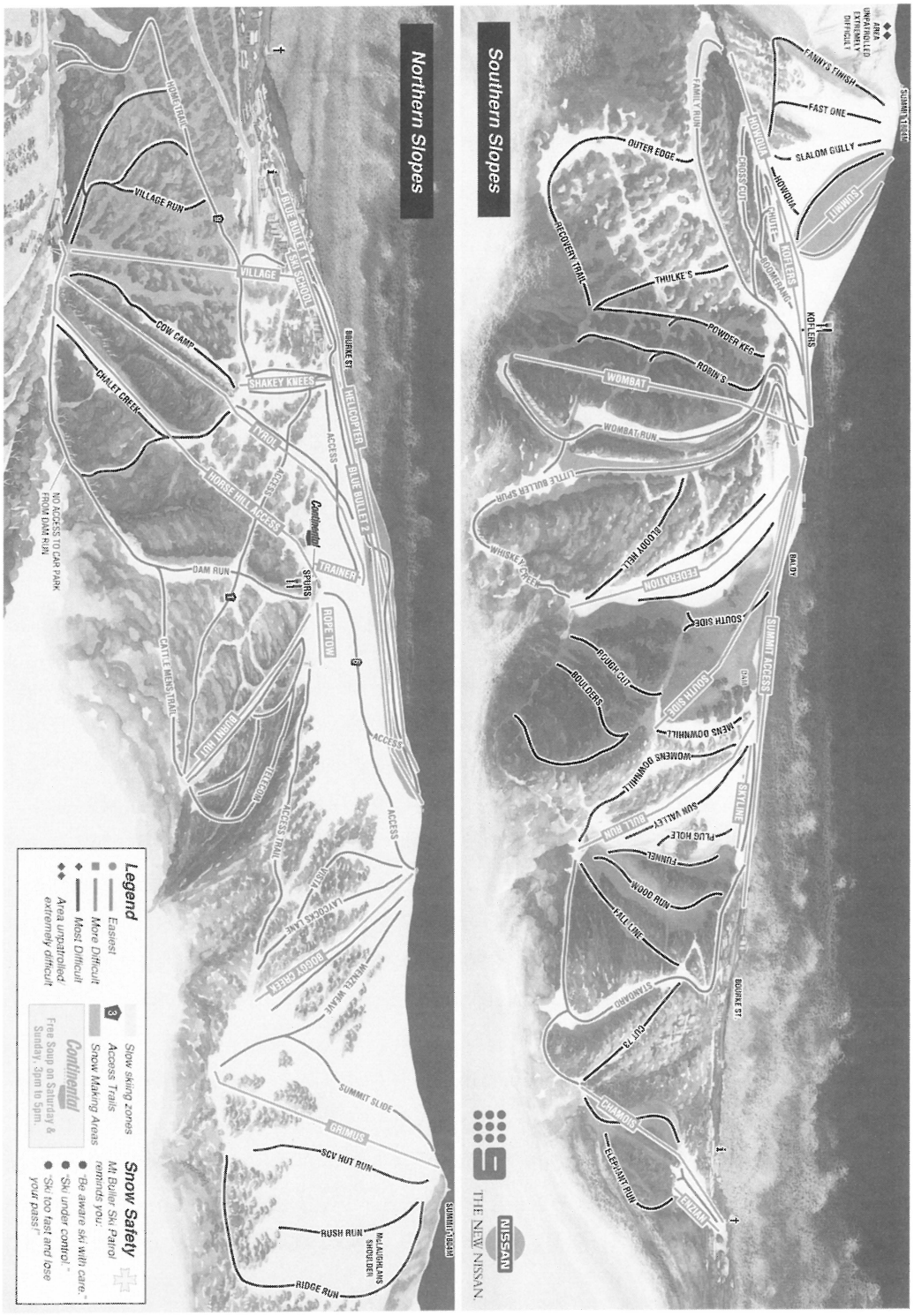
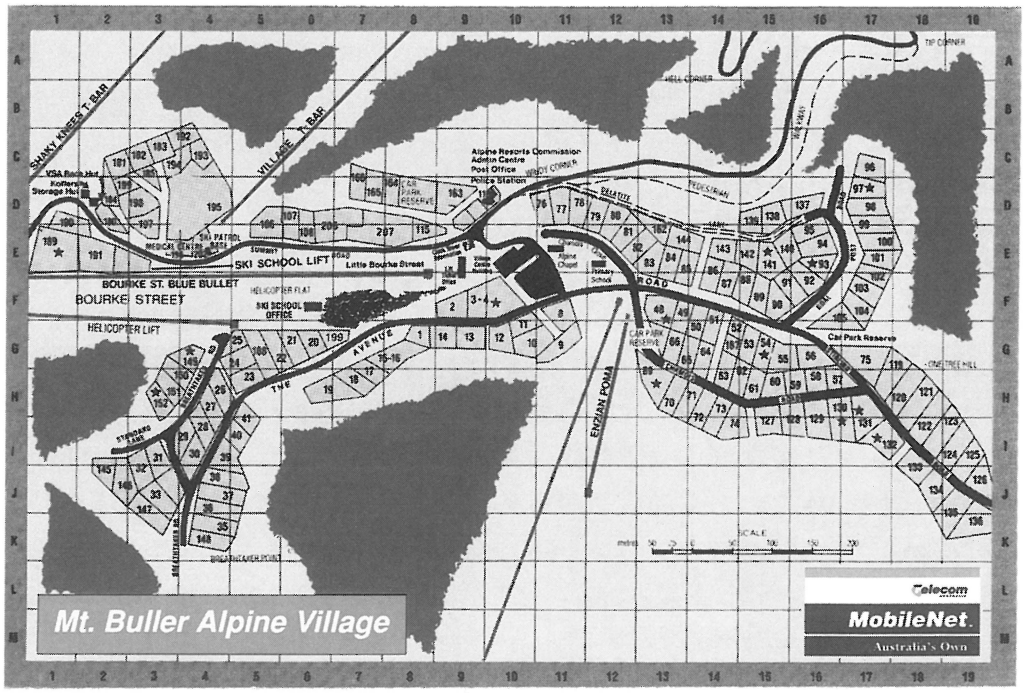


写真２　ビレッジ（村）

## Village Directory

| | Ref. | No |
|---|---|---|
| Abom | E5 | 106 |
| ABV | G15 | 55 |
| ACV | H7 | 17 |
| ARC Admin | D10 | 118 |
| Ace of Clubs | I3 | 31 |
| Aeski | E16 | 93 |
| Ajax | G15 | 54 |
| Akla | J4 | 36 |
| Alkira | F12 | 82 |
| Alpine Chapel | E11 | |
| Alpine Retreat | F13 | 48 |
| Amber Lodge | F17 | 102 |
| Apres | | 113 |
| Arlberg M/H | E1 | 189 |
| Army Alp Ctr | E17 | 100 |
| Apira | G9 | 13 |
| Auski | E10 | 117 |
| Aust Women's | G8 | 1 |
| Avalanche | E15 | 141 |
| Bayerland | D17 | 98 |
| Beehive Apts. | D3 | 182 |
| Belmore | G5 | 24 |
| Benalla | I14 | 74 |
| Benmore | I4 | 29 |
| Black Forest | G7 | 199 |
| Black Tulip | I5 | 40 |
| Blue Eyes | E16 | 95 |
| Bluff Lodge | E3 | 197 |
| B.M.W. | G5 | 25 |
| Bombora | J4 | 38 |
| Bracken | F13 | 85 |
| Breathtaker | H3 | 152 |
| Candoux | D12 | 79 |
| Caribou | H15 | 62 |
| Cawarra | F14 | 86 |
| Cedar | F16 | 92 |
| Chamois | G10 | 10 |
| Chetwynd | G6 | 20 |
| Alpine Chapel | E11 | |
| Clock Tower | E9 | |
| Club 25 | I3 | 31 |
| Cobbler | D3 | 185 |
| Collegians | K3 | 147 |
| Coonamar | F15 | 90 |
| Corio | D15 | 139 |
| Cortina | G14 | 64 |
| Chalet Apts. | D7 | 206 |
| Cresta Apts. | GII | 9 |
| Crosscut | C3 | 194 |
| CSIRO | D15 | 138 |
| Cuckoo Lodge | C3 | 182 |
| Currawong | D12 | 80 |
| Dandenong | G6 | 22 |
| Delatite | F14 | 86 |
| Discobolus | F17 | 104 |
| DoubleB | I4 | 39 |
| D Hill/Geeong | H4 | 26 |
| Elk | H4 | 27 |
| Eltham | H6 | 19 |
| Engadin | D2 | 184 |
| Enzian | H13 | 69 |
| Etna S.C. | F14 | 87 |
| Firmow | G14 | 50 |
| Firn | H5 | 23 |
| Four Winds | F16 | 91 |
| Geebung | G18 | 119 |
| Geelong/D Hill | H4 | 26 |
| Glacier | E15 | 142 |
| Gliss | J3 | 32 |
| Gonzaga | E13 | 162 |
| Hima | J4 | 37 |
| Holland Lodge | C2 | 181 |
| Howqua | E12 | 81 |
| Huski | I16 | 128 |
| Icicles | G13 | 66 |
| Igloo | G14 | 52 |
| Iltis | F15 | 89 |
| Inca | H13 | 70 |
| Information | E9 | |
| Ivor Whittaker | D4 | 195 |
| Jungfrau | I15 | 127 |
| Kandahar | D2 | 199 |
| Koomerang | D2 | 180 |
| Kooroora | D11 | 76-77 |
| Kooroora Hotel | F9 | 3-4 |
| Lantern | D17 | 97 |
| M Ski Club | G11 | 9 |
| Maganni | H16 | 59 |
| Mansfield | J2 | 145 |
| MMBLBus Lines | E10 | 116 |
| Mark II | D1I | 78 |
| Mawson | H17 | I8 |
| Medical Centre | E3 | 196 |
| Meki | E13 | 144 |
| Melb A.W.I.C. | FII | 8 |
| Merijig | H17 | 131 |
| Mitre | K4 | 148 |
| Moguls | E10 | |
| Moloneys P/L | E8 | 115 |
| Monash | E13 | 84 |
| Moose | G9 | 14 |
| Morgan-Pattern | G6 | 21 |
| Mt.Buller Ski Lodge | I17 | 132 |
| Lift Co. Admin. | E9 | 118 |
| Lift Co. Accom. | G5 | 188 |
| MB Store | E8 | 115 |
| Mulligatawny | H17 | 57 |
| Muski | G10 | 11 |
| Neringa | H18 | 120 |
| N Everest | G13 | 65 |
| Nomad | J3 | 33 |
| Nutcracker | F17 | 103 |
| O.G.G. | F13 | 49 |
| O.L.O.S. | G14 | 51 |
| Omega | GII | 9 |
| Omski | D16 | 137 |
| Opal | C17 | 96 |
| Pancake Parlour | E10 | |
| Patscherkofel | I4 | 30 |
| Pension Grimus | G4 | 149 |
| Piringa | I16 | 129 |
| Police Station | D10 | 118 |
| Polski | H6 | 19 |
| Pontresina | D2 | 182 |
| Port Phillip | H14 | 73 |
| Post Office | D10 | 118 |
| Preston | J18 | 133 |
| Primary School | E12 | |
| Public Lounge | E10 | |
| Public Phones | E10 | |
| Public Toilets | E10 | |
| R.A.N. | K4 | 35 |
| Reindeer | 14 | 28 |
| Ringwood | E13 | 83 |



ツアーがほとんどで、一回20～30人位である。その他の日本人客は、メルボルンに住んでいる人や、ホームスティで来ている学生などもおり、また、フリーで１～２ヶ月ほど滞在している学生などもいた。

## Ⅲ　スキースクール・レッスンシステム

スキースタールは、大きく分けて、「一般」、「レース」、「キッズ」、「キンディー」の４つの部門に分かれている。「一般」部門は成人向けの一般レッスンでグループレッスンとプライベートレッスンの２種類がある。料金は、グループレッスンでは、レッスンのみのチケットで２時間25Aドル、リフト券とレッスンを合わせたものは、１日70ドル（２時間レッスン）で、プライベートレッスンは１時間62Aドルである。札幌のスキー場と比べると多少割高であると思える。

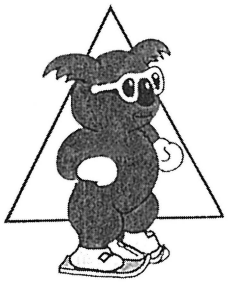
レッスン時間は、グループレッスンは９：00～11：00、11：00～13：00、13：30～15：30の１回２時間で、プライベートレッスンは随時行われている。技能レベルは１～６段階に分かれている。レベル６は全くの初心者でこの層の受講生が一番多い。レベル５はプルークボーゲン、レベル４はシュテムターン、レベル３はベーシックパラレルターン、レベル２は洗練したパラレルターン・小まわり、レベル１はオールラウンドという様に明確に分かれている。レベル５・６の初心者には「ディスカバリー・チケット」という一日券と同じ料金に、２時間のレッスンが含まれているものがある。これは、初心者がスキー学校に入ってしっかりとした技術を学ぶことにより、暴走などして事故等が起こらないようにするためである。日本には見られないユニークなサービスである。

日曜日などは、１日500人以上の人々がレッスンを受け、スキースクールは非常に忙しい。１グループは10人前後が平均だが、忙しい時は15人位になることもある。

「レース」部門はポールの指導を中心として行い、州のジュニアチームから、一般のレースを楽しみたい人々まで幅広い指導を行っている。また、グループ単位でポールを申し込む事も可能である（10人以下、２時間、１コーチ、178Aドル）。また、レースの運営も行っている。

「キッズ」部門は７才から17才までの子供を対象にレッスンが行われる。時間は、10：00～12：00、13：30～15：30までの午前２時間、午後２時間のレッスンで、昼食も用意されている。料金は、半日40Aドル、一日50Aドルである。このスキースクールでは会員制は「レース」部門以外とっていないので、すべてが単発の受講者である。レベルは「一般」レッスンと同じ６段階に分かれているが、特徴的なのは、各レベルをオーストラリアの動物と色によって区別し、ゼッケンで表している点である。下のレベルから、ホワイトコアラ、グリーンポッスン、ブラウンコックトゥー、ブルーエミュー、レッドウォンバット、ブラックカンガルーと全てオーストラリアの動物によって分けられている（写真３）。子供達は、その動物の絵のついたゼッケンをしてレッスンを受けるので、子供にも、保護者にも、そして教師にもレベルが一目で分かり、子供の目的意識もはっきりとして、非常にいいものである。また、これは、この

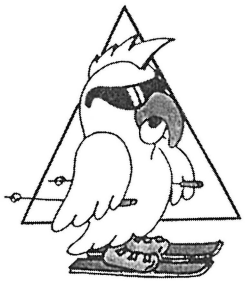
写真 3　子供用のレベル別ゼッケン



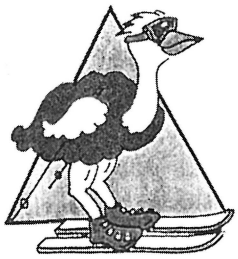
ホワイトコアラ

グリーンポッサム

（色は左が白、右がグリーン）



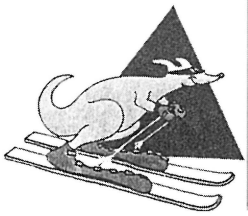
ブラウン・コッキー



ブルー・エミュー

（色は左が茶、右が青）

レッド・ウォンバット



ブラック・カンガルー

（色は左が赤、右が黒）

スキー学校独自のものではなく、オーストラリアスキー連盟によって決められ、オーストラリア内の全スキー学校でこの様に分類しているので、他のスキー場に行っても自分のレベルがすぐにわかるという素晴らしいシステムである。

「キンディー」部門は３～６才までの幼児達を対象としたクラスで、いわば、幼稚園、託児所的な感覚である。レッスン時間はキッズと同じであるが、朝は９：00から夕方４：00まで子供を預けることができる。このキンディーは、おもちゃ、絵本、テレビ、キッチン、ベットルームなどを備えた独自の部屋がある（写真４）。２時間のレッスンの中で必ず１度、休憩をとり、暖かいココアや冷たいジュース、ビスケットなどを子供達は食べることができる。天気の良い日は、外で休憩を取ることもあり、ピクニックのようである。クラスレベルはキッズと同だが、ほとんどが、ホワイトコアラとグリーンポッスンである。

また、「マジック・フォーレスト（魔法の森）」というキンディー専用のゲレンデがあることも特徴的な事である（写真５）。これは、およそ幅20m×長さ50mほどの小さなゲレンデで、両端に２本のロープトー（ロープにつかまって、斜面を登ることができるもの）があり、ポールやマットが設置されている。マットとは、カーペットやゴムの敷物で正方形を作り、子供が登ること、止まることが容易に出来るように設置されているものである。このマジック・フォーレストで、止まること、回転することなどが出来るようになったら、一般のゲレンデへと出ることができる。ここは、一般の人との接触事故なども無く、子供にとっては、非常に安全で、快適な場所である（教師にとつては一番大変な場所だそうだが…）。日本のスキー場においては、５歳以下の指導はあまりおこなわれておらず、見習うべき点が多った。

## Ⅳ　レッスン内容

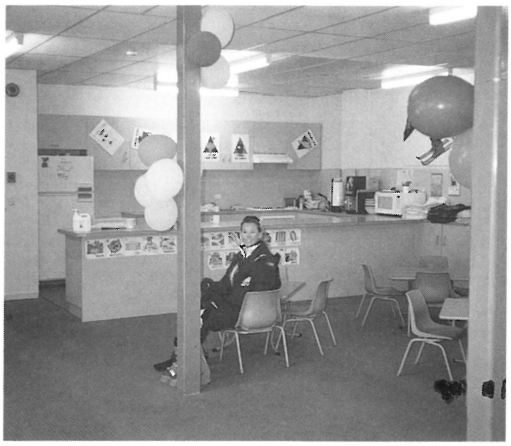
一般レッスンのグループレッスンのレベル６は初心者であり、ここでの指導において求められることは、全くの初心者を、２時間でポーマー（Jバーの様に股に挟んで乗るリフト）を使って、緩斜面でプルークボーゲンが出来るようにする事である。10～15人の１グループが、ゲレンデ狭しと、多いときでは20～30グループが整然と指導が行われていた。指導時間が少ないために、本当に必要最小限度のことだけを選んで行い、効率良く行わなければならないらしい。

レベル５では、プルークボーゲンで様々な状況を滑り込ませ、滑走距離を多く経験させ、スキーに、より慣れさせ、滑走スピードもアップさせ、外スキーにしっかりと乗り、内スキーのエッジが僅かに切り換った、狭いハの字で滑ることを目標としてレッスンが行われる。

「キッズ」コースにおいては、ホワイトコアラは、「一般」のレベル６同様に、止まること、プルークファーレン、そしてプルークボーゲンへと進むが、子供の場合は、体力、年齢の影響が非常に大きく、全員が２時間でプルークボーゲンにいけることは少なく、平均的には、プルークファーレンがおよそ１回のレッスンの目標となり、少し経験のある子供や体力のある子供はプルークボーゲンまでいくことができる。「キンディー」の幼児達の場合には、プルークファ

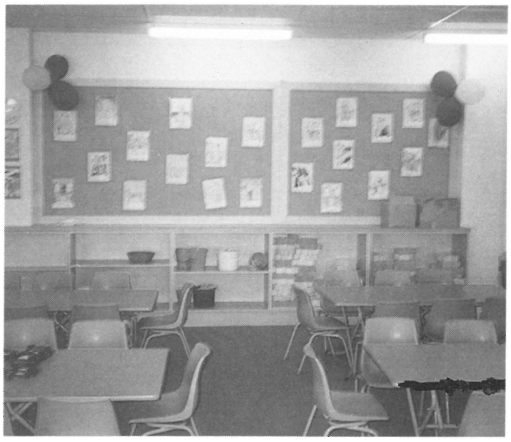
写真4　キンディー・ルーム

キッチン

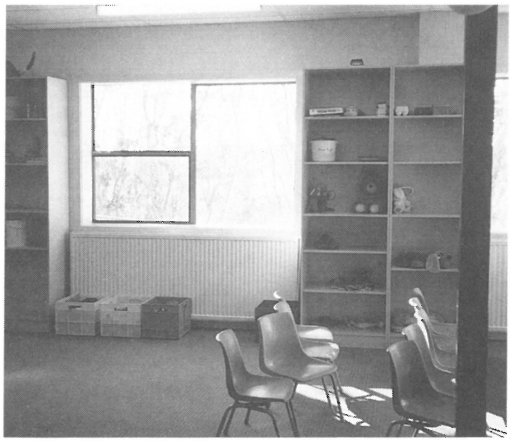


キッチン

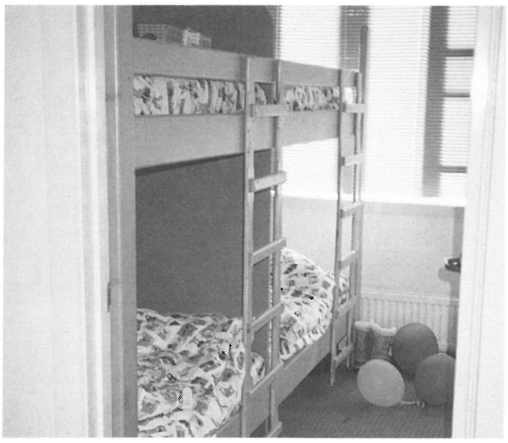
テレビや絵本



食事やお絵書の机



おもちゃ



ベットルーム

**写真５　マジック・フォーレスト**

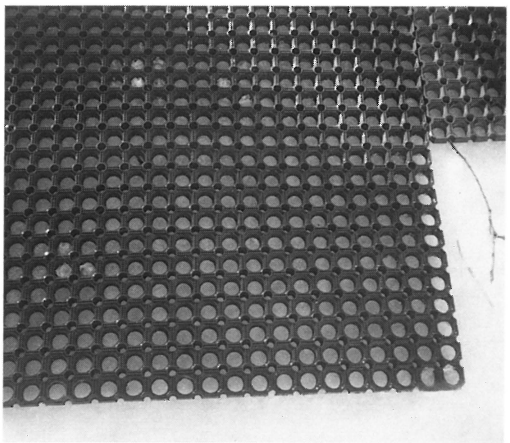
全景（上から）

全景（下から）

カーペットのマット

ミニゲート

ゴムのマット



ゴムのマット（拡大）

ーレンで止まることが出来るようになるまでに平均して、２日位必要である。上達の早い子供では１日、遅い子供では、３日位必要である。これは、脚力がないために、スキーをハの字に開くことや、それを維持することが非常に難しいからである。また、両親を淋しがったりして、スキーをあまりやらない子供達が多い。プルークボーゲンができると、子供達はグリーンポスンに上がることが出来る。ここでは、プルークボーゲンで滑り込み、滑走スピードをアップさせ、中斜面を降りることができ、ターン後半に内スキーのエッジの切り換えが僅かに見られる狭いハの字で滑れる様にするということが目標である。ここでは、滑走スピードを上げるために、緩斜面で「警官と泥棒」という教材がある。これは、１人が泥棒役となって、もう一人が警官となって、泥棒を追い掛けるというゲームであるが、これによって、子供達の滑走スピードを自然と向上させることができる。また、子供達もこのゲームが非常に好きで、何度もやりたがる。この様に、子供達にスキーを教える際に、日本のスキー学校で多く見られる様に一人、一人滑らせて、注意するといった方法ではなく、ほとんど、子供達が楽しみながら行える様な、色々なゲームや遊びを通して、スキーに親しませ、知らず知らずの内に上達させるという方法をとっており、見習う点が多い。各段階に技術的な目標がしっかりと定められ、それを実現する事の出来る様なゲームが多数考え出されている。

また、子供達にハの字を作ることを指導する際に「Make pizza」（ピザを作りましょう）とか、子供がイメージしやすく楽しみながらできる様に指導用語も工夫されている。また、スキー技術のためのゲームばかりではなく、レッスンの初めや休憩時間に子供達の注意を引くよう、楽しめる様に、いろいろなゲームや手あそびなども行われている。また、子供の場合は、ホワイトコアラ、グリーンポッスンという初級レベルではストックを持たせないことも特徴の一つである。初級段階ではストックを効果的に使うことができず、かえってスキー操作の邪魔をしたり、ストックに頼ってしまって、脚のしつかりした動作が出来ないということがその理由と思われる。登りや移動の際は多少の困難はあるが、見ていると、脚によるしっかりとしたスキー操作を身につけ、リラックスした上体、腕の構えをとることができていた。大人の場合はストックを持って指導する。

## Ⅴ　スキースクールの組織

スキースクールは校長（Bernd Greber，オーストリア人）がトップにおり、各部署のチーフであるスーパーバイザーが４名いる。「レース」部門を担当する教師は決められているが、他の部門に関しては全インストラクターが流動的に受け持つ。インストラクターは常勤が75名前後（うち、日本人が２名）、週末には他に仕事を持っている非常勤と合わせて150名前後の教師が稼働する。各チーフもオーストリア人が多く、全体では、15名程度のオーストリア人が働いている。彼らは、オーストリアの中でもトップクラスに位置するデモンストレーターである。他に、スイス、フランス、アメリカなどからもインストラクターが来ていた。オーストラリアのインストラクターも夏はヨーロッパ、アメリカ、日本などに働きに行っている人が多いようで

ある。

稼働ローテーションは日によって変り、校長が各チーフの意見を聞いて前日に決定される。これは、コンピューター管理となっており、教師控え室にコンピューターがあり、各教師はそれをチェックし、自分の稼動を確認するというシステムがとられている。日本では、まだ、このようなシステムは多くのスキー学校では行われていないと思われる。

日曜日などの忙しい日は、朝の９：00～10：00までプライベートレッスンを行い、10：00～12：00までキッズのレッスンを行い、12：00～１：00までまたプライベートレッスンを行い、30分の昼食の後、13：30～15：30までまたキッズを行い、15：30～16：30までまたプライベートレッスンを行うという、１日７時間も働く人もいる。

ミーティングは毎週月曜日の朝８：30から15～20分程、校長からの連絡事項や注意事項に続いて、各チーフからの連絡が行われる。また、時々、レッスン以外に、「キッズ」コースクリニック、マーケティング、ゲストサービスなどの室内における講義や、ゲレンデ上でのトレーニングなども行われる。

給料は、週給制で、時給計算である。中程度のレベルの教師の場合は、時給16.5Aドルで、実際の指導以外の他の仕事や、ポールやマットなどのセッティングや後片付け、スキースタールの掃除などといったものを行った場合は時給12Aドルである。そして、週25時間が最低保証である。約週30時間位が平均である。多い人は40時間位働く人もいる。税金は約30％と非常に高い。プライベートレッスンの指名があっても給料は同じである。このスキースクールを見て感じたことは、非常に良く組織化されていて良いということである。

## Ⅵ　寮

寮費は一週間140Aドル。３食込みである。１部屋４人で、２段ベットが２つ置いてある。食事は、朝は、シリアル、トーストを自分の好みによって選び、他に希望があれば、日玉焼き、スクラムブルエッグなどの卵料理を作ってくれる。昼は、スープが日替わりであり、その他にラザニア、パイ、ホットドックなどといった一品料理が毎日替わり、その他に、サラダ、マカロニ、ポテト、ハム、チ―ズなどが毎日用意されている。夜は、一つの皿に、肉料理のメインがあり、それに、ポテト、にんじん、プロッコリー、カボチャなどの野菜が付け合わされている。チャーハンやカレーなどの米もでるそうだが、魚料理は少ないらしい。毎日、ケ―キやアイスクリームなどのデザートが用意されている。フルーツ、牛乳、ヨ―グルトなどはいつでもセルフサービスで自由に食べることができ、インストラクターの健康管理が十分にされている。

## Ⅶ まとめ

Mt.Bullerスキー場における特徴的な点、およびわが国においても見習うべきと思われる点を以下にまとめる。

1） 日本における一般的なレッスン時間は10：00～12：00、1：00～3：00の一日4時間が一般的であるが、ここでは、9：00～11：00、11：00～13：00、13：30～15：30というように、1日6時間行うことができ、顧客がより多くのレッスンを受験することが可能であり、また、スキーインストラクター自身の給料も多く保証することができる。

2） 初心者を対象として、無料レッスンを受講することができるシステムをとっており、これにより、初心者が効率よく上達することができ、無謀な暴走などによる事故が防げる。

3） 子供のレッスンシステムが発達している。日本では、5歳以下の指導はまれであるが、ここでは、専用のゲレンデ、部屋、マットなどを使用し、安全性に十分に考慮し、しっかりとしたシステムで行われている。また、子供達のレベル分けが、オーストラリア国内のスキー場で統一されている点もすばらしい点である。さらに、子供を指導する際の指導用語・教材・ゲームが充実している。

4） スキー学校の組織化がしっかりと行われ、稼動システムはコンピューターにより管理され、手軽に自分の稼動を見ることができる。また、スキーインストラクターの教育も別時間にしっかりと行われており、インストラクター自身も「プロ意識」が強く、また、その職に誇りをもっている。

5） インストラクターの健康管理には十分に気をつけて、充実した食事が提供されている。

**謝辞**

本研究を行うにあたり、平成12年度北海道浅井学園大学特別研究費の助成をうけ、おこなうことができたことに感謝の意を表す。また、聞き取り調査に協力していただいた、Mt.Bullerスキー場の校長であるBernd Greberを始め、多くのスキーインストラクターの方々に感謝の意を表し、また、彼らのますますの発展を祈念する。